

大 学 名	明治大学
<b>〔国際化拠点構想の概要〕</b>	
本構想は、戦前から有数の留学生受入れ大学であった本学が、一層の研究・教育の高度化を図り、世界の安定的発展を持続させるため、国際社会と共に生き、国際社会に貢献し、世界中の人々が本学に集う「知のグローバルコモン」を確立する。平成32年度までに4000人の留学生を受入れ、1500人の学生を世界に送り出す。本構想を「グローバルコモン・プログラム」と名付け、世界トップレベルの大学を目指す。	
<b>グローバルコモン・プログラム－国際化拠点構想－の概要</b>	
<b>1. 海外における留学を促進するための取組</b>	
トータル・ソリューション・モデルの確立	明治大学は、(財)アジア学生文化協会(ABK)、(株)JTB法人東京、(株)ベネッセコーポレーションと <b>国際教育パートナーズを結成し</b> 、海外募集→入学→就職までの一貫した <b>トータル・ソリューション・モデルを確立</b> する。
海外拠点の設置	中国3都市における本学独自拠点の設置に加え、JTB海外施設等の活用により持続性・将来拡張性に優れた <b>海外拠点を整備</b> する(タイ、パリ等)。これら拠点では、留学生にワンストップサービスを <b>提供</b> する。
留学促進共同プラットフォームの構築、渡日前入学許可の推進	ベネッセ、ABKとの連携で日本の多くの大学に <b>汎用性のあるWeb出願システムを開発・開放し</b> 、 <b>日本留学ポータルサイト</b> の充実や <b>海外拠点での面接</b> を実施し、 <b>渡日前入学許可を推進</b> する。
エントリーサポートデスクの設置	渡日時の出迎え、入学時のビザ、宿舍、オリエンテーション、諸手続の支援を一括して専門に行う <b>エントリーサポートデスクを設置</b> する。
<b>2. 国内における留学生受入れのための取組</b>	
英語コースの拡充	<b>大学院</b> ①GCOE先端数理科学インステュート Ph.D.プログラム) ②経営学研究科英語コース ③ガバナンス研究科英語コースに加え④理工学研究科建築学専攻英語コースを増設(平成25年度新設) <b>学部</b> 国際日本学部国際日本学科英語コース(平成23年度新設)
質の保証、外国人教員比率の上昇	教材開発、FD推進、国際認証取得検討などで英語コースの質を保障する。 <b>外国人教員比率を上昇させ(10%目標)</b> 、外国で学位を取得した研究者の雇用も促進する。
多様な日本語レベルへの対応	日本語教育センターがABKとの連携のもとに、 <b>日本語初級者から上級者、ビジネス日本語、学術日本語までカバーするカリキュラム</b> を構築する。
クールジャパンプログラムの設置	「 <b>日本を学ぶなら明治!</b> 」をキャッチコピーとし、日本の文化・社会・技術等の豊富な蓄積と経験を「 <b>クールジャパンプログラム</b> 」として、主に留学生・日本人学生を対象に夏期講座等を実施する。
全学生のモビリティを高める施策	大学院・学部での単位互換を拡充し、 <b>大学間交流協定校を250校</b> に増やし、新たな <b>教育連携プログラム</b> や海外大学との <b>ダブルディグリープログラム</b> を開発して日本人学生を含む <b>全学生のモビリティを高める</b> 。
教育の質保証を促進	国際的通用性のある <b>厳格なGPAやシラバスの詳細化</b> を実施し、留学生の <b>在籍管理システムを構築</b> し、 <b>教員相互の授業チェック</b> などを実施して教育の質保証を促進する。
就職・キャリア支援の拡充	留学生専任就職支援担当者の配置、国際人材専門コンサル導入、校友会(OB組織)と連携した <b>明治大学グローバル人材育成会議</b> を新設、留学生インターンシップの拡充等により <b>徹底した就職支援</b> を実施する。
<b>3. 大学の国際化、実施体制の強化</b>	
国際連携機構の設置	学長を機構長とする全学的な <b>国際連携機構(国際連携本部・国際教育センター・日本語教育センター)</b> を設置し、各学部・大学院 <b>国際交流委員会</b> との連携を強化し、全学体制で国際化を推進する。
運営体制の強化・外部評価体制の確立	国際連携の運営体制を強化・効率化する。外部の専門家を含む <b>評価体制を確立</b> し、国際連携の推進について <b>年度ごとに評価</b> する。
日本人教員及び職員の国際化とFD・SDの推進	制度の拡充により、 <b>日本人教員の海外における教育・研究活動を促進</b> する。『留学生対応ハンドブック』や国際化研修プログラムを開発し、 <b>レベル別に国際化FD・SDを実施</b> する。また、職員海外研修プログラムを拡充する。
学内情報の英語化	英語によるHPの充実、外国人教員のための学部便覧の英語化、 <b>バイリンガル職員の採用</b> 、全学生・教職員のための情報提供インターネット・システムである <b>Oh-o! Meijiの英語化</b> を実現する。
<b>4. 大学の国際化のためのネットワーク形成</b>	
英語コース等の開放	英語コースや短期プログラムを広く他大学に開放し、 <b>日本の大学の国際化をオールジャパンで達成</b> する。
産業界との連携	国際教育プログラムの展開や留学生・日本人学生への <b>グローバル人材育成・インターンシップ・就職支援</b> について <b>広く産業界と連携</b> し、推進する。

## 【取組実績の概要】

## ・拠点大学の国際化

明治大学は、グローバル30による国際連携推進のため平成32年度に留学生4,000名の受け入れ、1,500名の学生の海外送出しを目標にしています。この「グローバルコモン・プログラム」達成のため、次の取組を柱にして着実に実績を挙げています。

- (1) 外国人教員比率増大と教職員スタッフの充実、FDによる教員資質向上
- (2) 「国際教育パートナーズ」による留学促進共同プラットフォームの構築と留学生支援体制の充実
- (3) 海外拠点形成などを通じた戦略的な国際連携の推進
- (4) 魅力的な短期プログラムの拡充と日本文化、日本の技術、社会システムなどの情報発信
- (5) 産業界・国内外の大学間ネットワークによる教育・研究の推進と海外における留学フェア開催
- (6) 学長をトップとした国際連携機構による推進体制（ガバナンス強化）

また、大学院・学部における単位互換を拡充、海外大学交流協定校を増加し、新たな教育連携プログラムや海外大学等とのダブルディグリープログラムを開発して、日本人学生を含む全学生のモビリティを高めていきます。一方、グローバル人材育成が社会的な課題となるなか、自律性、協調性、価値醸成、英語力など、学生のグローバル人材としての資質を高め、学生の海外送出しを強化しています。「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」による実績と、文部科学省「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」事業及び「大学の世界展開力強化事業」の3つを合わせた国際化事業により相乗効果をもって大学の国際化を進めています。

## ・英語による授業のみで学位が取得できるコース

海外からの留学生が英語のみの授業により学位が取得できる「英語学位コース」の開設を進めました。平成25年度末までに5つの英語学位コースを設置しています。

## 【大学院】

先端数理科学インスティテュート(MIMS Ph.D. プログラム)	平成21年4月開設	博士課程
ガバナンス研究科英語コース	平成22年4月開設	専門職学位課程
経営学研究科ダブルディグリープログラム	平成22年4月開設	修士課程
理工学研究科建築学専攻国際プロフェッショナルコース	平成25年4月開設	修士課程

## 【学部】

国際日本学部イングリッシュトラック	平成23年4月開設
-------------------	-----------

## ・留学生受入のための環境整備

## 【留学生に対する支援—就学、生活、経済、就職等】

- 専門スタッフによるエントリーサポートの充実（入学願書受付、在留資格管理、宿舍手配及びオリエンテーション）
- 留学生向けの宿舍確保（提携業者との契約及びホームステイプログラム）と交換留学生専用宿舍の借上げによる提供
- 3つのキャンパスにおける国際交流ラウンジ運営とキャンパスメイトによる留学生交流の実践、学習支援室とチューターによる学習指導体制
- 国際連携機構教員による留学生を対象としたカウンセリング体制
- 授業料減免措置（25～40％）の継続実施と大学独自の奨学金制度（特色ある入試による奨学金・新興国からの留学生）
- 留学生に特化した企業見学会、説明会・セミナーの開催、エントリーシートの添削指導及びビジネスマナー講座の実施。日常的な就職相談の実施。
- グローバル人材育成・グローバル採用を実施する企業との懇談・ワークショップ・講演会開催。

## 【日本語・日本文化の学習機会の提供】

- 未習レベルからディスカッションができるレベルまで幅広い日本語授業設置。特に英語コース在籍者入門レベルのクラス数増
- 日本語未習の学習者に対する日本語教育センターで開発した「日本語e-learningシステム」提供
- 留学生バス見学旅行、日本文化体験、東京フィールドプログラムにより日本を体験
- 夏期・冬期日本語短期研修プログラム（日本語授業とフィールドプログラム—着物着付け体験、茶道体験等）

## ・目標の達成状況

- (1) 英語コースの質保証（外国人教員比率の増大(7.7%)、海外公募による任用、“トップスクールセミナー”などアクティブラーニングの増大）、英語による専門科目の増加（400コマ）
- (2) 留学生に対する日本語教育体制の充実、留学生サポート体制の強化（国費留学生の割当増加、短期留学生に対する奨学金支援、心理相談、就職活動サポートなど）
- (3) G13大学との連携（情報共有、G13大学独自の海外留学フェア：8大学拠点・インド・シンガポール・韓国等）、経団連との就職フォーラムなどの産学連携の取組
- (4) 世界的な知名度上昇：海外有力大学との連携強化（大学間交流協定校の増大(233校)、大学院・学部での単位互換プログラムの拡充、送出し学生の増大(960名)、学生モビリティの向上、ダブルディグリーの実施：経営学研究科・政治経済学部、日本・カナダコンソーシアム）
- (5) 大学内での教職員の意識改革、学部・研究科間競争とガバナンス強化
- (6) 産学連携での「留学促進共同プラットフォーム」開発と他大学への普及促進による日本の大学全体のインフラ整備への貢献、民間企業との連携による海外拠点設置（北京事務所開設）